

令和6（2024）年度
事業計画書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

I. 事業方針

本センターは、オリンピック・パラリンピックの受入れによる3年間の休業を経て、令和4年3月18日に営業再開を果たしたものの、長期ブランクによるお客様のCSC離れに、新型コロナウイルス感染症、異常気象、物価高騰等の影響も相まって、入場者が2年連続して10万人を割り込むなど、開所以来、最大の危機を迎えている。

そこで、令和6年度は、このような状況から脱却し、何としてでも休業前レベルの年間13万人の入場者を獲得し、財政の健全化を図るため、様々な方策を講じて事業運営に取り組むこととする。

入場者の増員に関しては、安定した人気を誇る「おもしろ自転車」等の既存施設に加え前年度に導入した「サイクルスインガー」、「サイクルジャンパー」、「ステンレス製ジャングルジム」と、3年目を迎える夏季シーズンの目玉「水遊び広場」で一般客の興味を掻き立てるほか、毎週水曜の休園日を活用した、きめ細かな販売促進活動を実施し、近隣宿泊客や団体客の上乗せを図るとともに、新規の自転車競技大会及び合宿を積極的に誘致し、自転車競技者を始めとするスポーツ選手の来場促進を目指す。

この他、入場者数に左右されない財政改善策として、新規事業の開設も視野に入れた増収策、内部組織の統廃合や専門的職種のアウトソーシングによる人件費の削減などの合理化策についても、具体的な検討を進め、可能なところから実行に移す。

本年度の主要な施策は、次のとおりである。

- 財政の健全化（入場者の増員、大会及び合宿の誘致、合宿所サイテルの誘客促進、増収策の推進、合理化策の推進）
- オリンピック・パラリンピックレガシーの活用（大会の開催、地元行政と連携した自転車競技の振興）
- 国際自転車競技大会の受入れ調整（夏季デフリンピック大会東京2025、愛知・名古屋2026アジア・アジアパラ競技大会）

なお、一部事業の実施にあたっては、公益財団法人JKAに対し、公益事業振興資金（自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する事業、自転車競技場を中心とした自転車の普及促進のための総合的な施設の補修事業）の補助を申請する。

II. 事業内容

1. サイクルスポーツ施設の運営等に関する事業

(1) サイクルスポーツ施設の運営

オリンピックやパラリンピックの競技会場として使用された5キロサーキット、伊豆MTBコース、伊豆ベロドローム等の自転車競技施設を広く一般に提供し、サイクルスポーツの普及に努めるとともに、大会・合宿・イベント等多方面での活用を図る。

また、オリパラレガシー活用推進の観点から、これら施設の認知度向上と利用促進を図るための特別企画を策定し、地元小中学校への案内を進めるとともに、伊豆 MTB コースについては、一定以上のスキルを有する競技者向けにオリンピックコース全面開放のトレーニング利用日を設け、MTB 競技の競技力向上、普及促進に寄与するものとする。

なお、経年劣化の著しい 5 キロサーキットの非常電話については、公益財団法人 JKA へ補助申請を行い、補修整備を予定している。

(2) 屋内スポーツ施設の運営

室内フットサル場及びウエイトトレーニング場等の屋内スポーツ施設については、地域スポーツや健康増進の場として、また、学校団体や青少年グループ等若い世代のスポーツ合宿の場として提供する。なお、室内フットサル場の利用促進として、ホームページ等で積極的に案内を行う。

(3) 野外活動施設の運営

DAY キャンプ場については、飯盒炊飯による集団共同作業や自然体験活動の場として提供するが、雨天会場のスペース拡大や改めて利用団体のニーズに合わせた営業商品を造成・案内し、学校団体を始めとする利用者の増員を図ることとする。

(4) 合宿所サイテルの運営

合宿所サイテルについては、年間宿泊者数 1 万人を達成するため、より高頻度で首都圏への販売促進活動を実施し、各種スポーツ合宿の誘致を目指すほか、一般層をターゲットにしたホームページでの PR、空き状況の発信を積極的に行うなどして、個人客の獲得にも努める。

また、宿泊施設の予約方法の主流となっているネット予約についても、宿泊予約サイトへの掲載や本センターオフィシャルホームページからの直接オンライン予約等の導入についても検討を行い、利用者の利便性向上に努めるものとする。

(5) その他の事業

自転車競技施設及びトレーニング施設の貸与、各種自転車及び関連機材の貸出し、企業広告看板掲出場所の提供のほか、各種競技用自転車やオリンピック・パラリンピック関連の展示等を引き続き行う。

2. 自転車競技及びサイクルスポーツ等を普及促進する事業

(1) アジアサイクリングセンターの運営

ア. 運営体制の見直し

設立 22 年目となるアジアサイクリングセンターについては、UCI 国際自転車競技連合においてワールドサイクリングセンター (WCC) 構想の見直しが実施され

ていることから、日本オリンピック委員会（JOC）、日本自転車競技連盟（JCF）、JKAの国内関係団体とも協議を行いながら、新たな運営体制を模索していくものとする。

イ. 国内トレーニングキャンプ

UCI国際自転車競技連合支援事業として、アジア各国から将来を期待されるトラック競技者及び指導者（定員18名/回）をCCC修善寺に集め、2週間の訓練研修を2回行い、自転車競技の振興に努める。

(2) 自転車競技大会及び合宿の開催と受入れ

オリンピック・パラリンピック競技大会の会場となった諸施設を活用して自転車の国ならではの自転車競技大会を開催するほか、オリンピック・パラリンピックレガシー大会を始め、現在本センターで開催している他団体主催の競技大会に加え、他会場で開催されている大会についても、積極的に本センターでの開催を働きかける。

また、合宿においては、大学生自転車部や実業団チーム等の受入れを強化するとともに、自転車競技以外のスポーツ団体を対象にしたクロストレーニングやトレーニングと仕事をセットにしたワーケーションの受入れ等、新規の合宿者増を目指す。

なお、大会・合宿を誘致するため、一般社団法人ふじのくにサイクルスポーツコミッションとも協調し、様々な方策を検討する。

[主催大会]

- ・2024-2025CSCクリテリウムシリーズ（4月～3月：9回）
- ・2024Challenge The Izu Velodrome（6月・11月：2回）
- ・CSCトラック自転車競技大会2024（7月）
- ・第24回CSC5時間耐久チームサイクルロードレース大会（10月）

[他団体が開催を予定している主な大会]

- ・第47回チャレンジサイクルロードレース大会（4月）
- ・2024ジャパントラックカップI/II（5月）
- ・第92回全日本自転車競技選手権大会<ロード・パラサイクリング>（6月）
- ・第93回全日本自転車競技選手権大会<トラック>（9月）
- ・2024ジャパン・マウンテンバイク・カップ in 伊豆MTBコース（3月）

(3) 伊豆サイクルスポーツクラブの運営

本センター独自に自転車競技愛好者組織「伊豆サイクルスポーツクラブ」を運営し、トラック競技を中心に、400メートルピスト等で毎月3回程度の実技指導を行い、自転車競技の底辺拡大を図る。また、気軽にトラック競技を楽しめることをホームページ等でPRし、クラブ員の増及び新規の自転車競技者の発掘に努める。

同クラブの活動理念は次のとおりである。

- ① 地元伊豆市の「スポーツ少年団」に登録し、地域と密着した活動を展開する。

- ② 自転車競技の初心者からトップアスリートを目指す者まで、老若男女幅広い層の競技愛好者を受け入れることとし、常に会員の増大に努める。
- ③ 定期的に記録会や競技会を実施し、会員の練習意欲の向上を図る。

(4) 自転車スクールの開催

自転車愛好者の底辺拡大を図るため、自転車に乗れない女性を対象にした1泊2日の乗り方教室を5回（第330回～第334回）、小学生を対象にした日帰りの乗り方教室を3回（第120回～第122回）開催する。

また、地元行政や自転車関係団体と協力して、トラックヤングキャンプやMTBヤングキャンプ等の開催を計画し、自転車競技者の底辺拡大を目指す。

(5) 各種イベントの開催

ア. 自転車普及イベント

静岡県一輪車連盟の協力を仰ぎ、年齢・性別を問わず楽しみ、特に子供たちに人気の高い一輪車のイベントを開催して自転車愛好者の底辺拡大に努める。

- ・ 第19回 CSC3 時間耐久一輪車レース大会（6～7月）
- ・ 第32回新春静岡県一輪車競技大会～5キロサーキットマラソン～（1月）
- ・ 第10回静岡オープン一輪車駅伝大会（2月）

イ. スポーツ健康事業

5キロサーキットを使用したマラソン大会や、オリンピックで使用した伊豆MTBコースのウォーキングプログラムなどを開催することにより、スポーツへの参加機会を増大させるとともに、スポーツ愛好者に本センターの存在を認知させる。

(6) 自転車競技の地域普及啓発活動

静岡県立伊豆総合高等学校の体育科目選択授業の受入れを行うとともに、三島市が主催する「みしまジュニアスポーツアカデミー事業」や静岡県自転車競技連盟が主催する「ジュニア/女子アスリート育成強化事業」等への協力を行い、タレントの発掘並びに競技力向上の一翼を担う。

(7) 自転車と健康プログラムの実施

静岡県や地元行政からの委託を受け、膝や腰などの関節に過度な負荷をかけることなく最適な運動強度を選択できる「自転車」を利活用した本センターならではの健康プログラムの実施に協力する。

また、本センターが保有する人材、施設、機器、ノウハウを有効活用し、近隣市町の住民や一般企業の従業員等を対象にした健康プログラムを開発し、新たな事業展開を目指す。

(8) ナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点施設の機能強化

パリ 2024 大会が開催される本年度は、自転車ナショナルトレーニングセンター強化拠点の運営成果と必要性を示す年となる。

については、スポーツ庁との委託契約に基づき、引き続きナショナルチームの強化やジュニア競技者の計画的な育成を行うための施設の専有利用及びトレーニング施設の競技環境の向上並びに情報ネットワークの構築等、競技力向上のための各種サポートや機能強化事業を行う。

なお、本事業の実施にあたっては、スポーツ庁からの指導に基づき、医科学及び地域振興の観点から、JKA（日本競輪選手養成所）や地元行政の静岡県、伊豆市等のステークホルダーとコンソーシアムを形成し、事業を推進していくこととする。

3. サイクルスポーツに必要な自転車等に関する研究

自転車施設にレンタサイクルとして配備した各種市販自転車の利用後の評価に関して、利用客を対象としたアンケート調査を行うとともに、日常の自転車利用の機会や目的等についてもデータを収集する他、5キロサーキットの下り坂部に電光掲示板を試験的に設置することで、スピードの抑制を喚起する安全走行に関する研究を引き続き実施する。

4. サイクルスポーツ施設に付帯する施設等の運営に関する事業

(1) 自転車関連施設・遊戯施設の運営

“安全性の確保”と“満足度の向上”を念頭に置き、ファミリーサーキット、おもしろ自転車、サイクルモノレールを始めとする自転車関連施設や、サイクル立体迷路、サイクルコースター、スカイローラー等の遊戯施設を一般へ提供する。また、令和5年度に新規オープンした、身体を動かして遊ぶアトラクション「サイクルスインガー」、「サイクルジャンパー」、「ステンレス製ジャングルジム」と、3年目を迎える夏季シーズンの目玉「水遊び広場」を積極的にPRし、誘客促進を図る。

(2) 販売促進活動

年間入場者13万人を達成するため、静岡県内並びに首都圏の主要旅行代理店をターゲットにした定期セールス、静岡県東部地区における市町教育委員会及び小中学校への特別企画（①伊豆ベロドローム見学会&ローラー自転車体験、②伊豆MTBコースウォーキング&ヒルクライム体験、③スポーツバイクライディングスクール、④サイクルスインガーぐるぐるチャレンジ）の提案、近隣幼稚園・保育園・こども園、スポーツ少年団等への積極的な情報提供、伊豆半島一円の宿泊施設を対象にしたチラシ・割引券の配布依頼など、毎週水曜の休園日を活用した、きめ細かな販売促進活動を展開する。

(3) 収益的な施設の貸与

平日や閑散期には、可能な限り一般営業との調整を図り、サーキットコース等を収益性の高い商業撮影やモーターイベントの場として提供し、収入の獲得を図る。なお、企業や撮影業者が問合せしやすい環境を整えるため、ホームページに貸切状況を掲載するなどの方策を講ずる。

このほか、既存施設の有効活用につながる民間事業者の各種イベントやドラマ・映画等のロケ、屋外コンサートの誘致にも力を入れ、収益の獲得、知名度向上に努める。

(4) PR活動

本センターのホームページを活用し、施設の営業やイベント、飲食・宿泊サービスに関する基本情報・最新情報をきめ細かに掲載していくとともに、X（旧ツイッター）やインスタグラムなどの SNS を積極的に活用し、タイムリーな情報をいち早く発信していく。併せて、夏・春のシーズンやイベントの開催時には、テレビ、新聞、チラシ等により広告宣伝を実施するほか、各種報道機関や地元行政機関に対して自転車競技大会やイベントに関する積極的な情報提供を行い、パブリシティ活動を推進する。

(5) 営業体制の見直し

少数精鋭での運営体制を図るため、水曜日・木曜日を休園日とする「休園日週2日制」を継続するほか、多くの来場者が見込まれる繁忙期には、特例日を設定し、営業時間を延長するなど、柔軟な対応を行う。

また、昨年度に引き続き12月第2週の5日間の年末休業を取りやめるほか、旧盆期間に夜間営業を実施するなどして、来場者増を目指す。

5. 飲食等付随するサービス事業

飲食及び物品販売事業については、顧客満足度の向上を念頭に置き、地元食材を取り入れた魅力ある食事メニューを提供するとともに、期間限定商品や目玉となる商品を企画・販売し SNS で露出を高める等売上増進を目指す。

また一方で、今後の飲食サービス事業の在り方について、様々な角度から研究・検討を行う。

6. オリンピック・パラリンピックレガシーの活用（大会の開催、地元行政と連携した自転車競技の振興）

オリンピック・パラリンピックレガシーの活用を念頭に置き、トラック競技、MTB 競技等の自主大会やイベントを積極的に開催するとともに、地元行政及びふじのくにサイクルスポーツコミッションの協力を得て、伊豆ベロドローム及び伊豆 MTB コースの施設見学会・体験試乗等、自転車競技の振興や住民の健康増進を図るためのイベントを実施する。

また、サイクルスポーツの聖地実現に向けた「自転車トレーニングヴィレッジ構想」については、静岡県や自転車関係団体と具体的な計画を協議し、今後の方向性を明確にする。

7. 増収策及び合理化策の推進

令和6年3月にオープンした「ステンレス製ジャングルジム」の紹介を中心にしたPR、夏季水遊び広場の拡充及び環境整備、地元学校団体の誘致、冬場の閑散期における近隣都県を対象とした割引企画の実施、自転車競技大会及びスポーツ合宿の誘致強化の他、伊豆ベロドロームのネーミングライツ、自治体や企業向けの健康増進プログラムの開発など新規事業に取り組むことにより、増収を図ることとする。

併せて、健全な財団運営に向けて、事業規模の見直し、専門的職種のアウトソーシング、今後における飲食提供事業及び宿泊事業の在り方等について具体的な検討を進め、可能なところから実行に移す。

8. 国際自転車競技大会の受入れ調整

主催者から会場提供の要請がきている第25回夏季デフリンピック大会、第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会について、関係機関と受入れに向けて具体的な調整を行う。

[東京デフリンピック]

開催日程：令和7(2025)年11月

実施競技：ロード競技・MTB競技

使用施設：ロード競技 — 5キロサーキット

MTB競技 — 伊豆MTBコース・5キロサーキット

参加選手：約70人

[愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会]

開催日程：令和8(2026)年9月～10月

実施競技：アジア — トラック競技

アジアパラ — トラック競技・ロード競技

使用施設：トラック競技 — 伊豆ベロドローム

ロード競技 — 5キロサーキット

参加選手：未定

9. その他

(1) 地域行政等との連携

ア. 伊豆市事業への協力

市内各こども園でのランニングバイク出前教室や、市民を対象にした自転車健康プログラム事業への協力を行う他、伊豆市が主催する「自転車と伊豆推進協議会」に引き続き参画する。

イ. 静岡県事業への協力

静岡県が主催する「静岡県サイクルスポーツの聖地創造会議」等へ参画するほか、本センターを拠点とした「ふじのくにサイクルスポーツコミッション」とも協力体制を確立し、地域におけるサイクルスポーツの発展や住民の健康増進に寄与する。

また、伊豆 MTB コースの活用及び MTB 競技の普及並びに静岡県民へのスポーツの場の提供を目的とした静岡県との協定に基づき、県民割引の実施やタイアップ事業を展開する。

ウ. 地域おこし協力隊との連携

伊豆市地域おこし協力隊の協力も得て、行政や本センターが推進するレガシーイベントのほか、サイクルスポーツイベント及び競技大会の企画・運営、自転車関連事業に関する情報発信等オリンピック・パラリンピックレガシーの活性化を推進する。

(2) 各種資格取得の奨励・支援

自転車技士（日本車両検査協会）、自転車競技コーチ（日本スポーツ協会・日本自転車競技連盟）、自転車競技審判員（日本自転車競技連盟）、スポーツリーダー（日本スポーツ協会）、スポーツ少年団認定員（日本スポーツ協会・日本スポーツ少年団）やドローンの操縦、パソコン操作のスキルアップ等、本センターの事業運営に必要な資格に関しては、現行の担当業務を問わず、その取得を積極的に奨励する。

(3) 職員研修の実施

運営の基本とされる接客マナーの向上及びコンプライアンスに関する教育を徹底するとともに、職員のスキルアップや SNS の活用など業務改善を目的に研修を行うことにより職員の資質向上を図り、サイクルスポーツセンターの組織力強化に努める。

上記以外の業務についても、必要に応じて適宜行う。